

多胎育児講演会

多胎育児サークル ハッピーキッズ旭川支部

〒071-1201 北海道上川郡鷹栖町南一条5-2-4

助成事業の概要

多胎の育児は妊娠期からハイリスクで、出産後には不眠不休の育児による疲労などの身体的負担、情報不足による精神的不安、2倍以上の衛生用品・医療費を含めた経済的負担、外出困難への社会的サポートの不足など重なることが多く、そのため社会的孤立やうつ症状、虐待に結びつきやすい現状です。多胎ならではの様々な困難性への解決策を一緒に考えたいと願い、平成25年9月22日（日）、北海道鷹栖町サンホールはびねすにおいて多胎育児講演会を開催しました。

講演会は「今できる、これからできる双子の育児をしている家庭への支援」と題して、石川県立看護大学健康科学講座教授の大木秀一先生から、データーを交えて多胎ならではの問題点をお話し下さり、そして、ひょうご多胎ネット代表の天羽千恵子先生から「ひょうご多胎ネットでめざすもの」と題し講話いただきました。ハッピーキッズ旭川支部の会員から「双子の育児はチョーたいへん！」というテーマで多胎育児体験発表、さらに参加者全員でグループトークを実施し講師や多胎育児サークルハッピーキッズ本部の川原里美さんから助言をいただきました。託児は経験豊富なたかす円山幼稚園教諭によるプログラムで安全に楽しく過ごしてもらいました。

事業の成果

講演会には、双子との外出が難しい中で広域からの参加が有り、後援先からの多胎育児の理解と

協力が得られた結果と考えます。大木先生の講演から、多胎育児の身体的負担と経済的負担が顕著に有ること、負担は双子で2倍ではなく4倍、三つ子なら3倍ではなく9倍の負担になることがデータとして示され、鷹栖町の町長・教育長・社会福祉協議会会長から「数字で見せてくれたことがインパクトがあった。」明確に多胎育児は大変だということ、支援の手が必要なことを感想としていただきました。個別支援や多胎育児サークルだけでは、多胎児家庭には有効な対応はできないこと、行政・医療・学校・研究・多胎育児サークルがともに妊娠・出産・育児を通じた連続的・継続的なサポートと情報提供がされることが、すべての多胎児家庭をフォローできること、そのために地域多胎ネットが機能することが望ましいと、先駆的な取り組みの紹介がありました。双子の親でもある天羽先生から「こんなはずじゃなかった多胎育児」の内容が、お母さん達の心に身近に響き涙する姿が見られました。ピアサポートの活動から多胎ネットの活動まで、様々な立場の方々の理解を得ながら地域の特性に合わせた多様な形の多胎ネットがある事がわかりました。ハッピーキッズ会員2名からの多胎育児体験発表では、妊娠・出産に伴うリスクの大きさや、単体の育児で追い詰められて涙が止まらなくなってしまったことや、双子が大きくなるに連れて公平に対応することの難しさなど、双子ならではの困難さがいっぱい詰まった内容でした。参加者全員によるグループトークでは、特に父親のみのグループから「職場で双子のことを理解してもらえない」「双子がいるということで飲み会に誘われない」と多胎育児

が父親の職場にも影響している事を改めて感じました。

多胎育児講演会に無くてはならない託児は通常の託児数の2.4倍になり、後援先の社会福祉協議会の支援で大勢の育児ボランティアを投入できました。年代別プログラムで時間や実施内容・役割分担が明確になり連携がとれたことで、4時間という長い託児時間にもかかわらず子供達の反応が良く、双方にとって楽しい企画でした。

成果の広報、公表

①多胎育児支援協会 JAMBA NWS No.39
2013.11.13 もくじ [4]

<http://jamba.or.jp/>

②北海道新聞9月25日掲載

③鷹栖町広報10月号掲載 (P18)

<http://town.takasu.hokkaido.jp/gyousei/kouho/>

④鷹栖町社会福祉協議会だより139号掲載 (P18)

<http://www.doshakyo.or.jp/>

⑤ハッピーキッズ旭川支部ブログ

<http://happykidsasahikawa.blog.fc2.com/>

⑥ふたごだより講演会報告版の発行

⑦その他、鷹栖町広報と同時配布のたかす円山幼稚園だよりに掲載、ハッピーキッズ用LINEのタイムライン、Facebookのタイムライン、MIXIのコミュニティに掲載

に携わって下さったからこそ開催できたものです。また、専門職である保健師・助産師・幼稚園教諭・子育て支援センター保育士が役割を発揮して下さいました。育児ボランティアから初めての双子の託児で不安があったが、4時間の託児で両親の大変さが理解できたこと、プログラムにより安心して携われたことで次回の支援に自信がついたと感想でいただきました。多胎育児については、まだまだ地域格差がある現状、函館のハッピーキッズ本部からのサポートも含め、育児体験者によるピアサポート体制の構築をこのつながりから発展させ、さらに理解者・支援者の輪を広げたいと思います。

今後の展開

今回非常に大変だったのは、異年齢に合わせた託児の企画・会場選定・物品準備・育児ボランティアの確保でした。1市2町（鷹栖町・東神楽町・旭川市）の社会福祉協議会が連携して、育児ボランティアの派遣から、講演会企画・運営等と一緒に